

■部会の基本情報

部会名	相談支援部会
担当者名	部会長 サポートセンター沼南 中原 久
部会の目的	柏市における相談支援体制のあり方を協議
構成員	委託相談支援事業所, 指定相談支援事業所, 当事者団体, あいネット, 行政(障害福祉課)

今年度の予定(今回の報告対象:背景色のある回)

会議体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援部会		①20日				②6日			③23日			
相談支援連絡会	①26日			②19日			③25日			④17日		
計画相談実務者ワーキング			①19日			②18日		③20日				

■プランとの関連

関連する柱	柱1(相談支援)
-------	----------

プラン方針	・基幹相談支援センターの機能強化 ・相談従事者への支援 ・関係機関の連携強化
-------	--

■各回における検討内容

地域の声>当事者からどんな声があった?何に困っている? ⇒ 部会で出た課題>なぜ困っている?どこに課題がある? ⇒ 今後の方針>部会でどんな取組を進める?

件名: 不測の事態における相談支援専門員の対応について~相談支援専門員の孤立化防止~ 他部会との連携: 自部会で検討を継続 運営会議での取扱い: 情報共有

基幹相談支援センターによる事業所訪問、計画相談実務者ワーキングによる会議により、相談支援事業所の閉鎖や一人~少人数の相談支援事業所においての不測の事態の場合、サービスの更新や面談など当事者・家族が困ってしまう。	⇒	急に事業所が閉鎖してしまうと、ケース概要を担当相談支援専門員以外知らないことがある。一人~少人数の事業所の場合、相談支援専門員の急な体調不良等での不測の事態への対応の難しさが、マニュアル等もないため、基幹相談支援センターや地域生活支援拠点だけでは対応がしきれない。	⇒	BCPの検討をしつつ、協働型事業や一人~少人数の相談支援事業所が安心して業務継続が出来るサポート体制を来年度も継続して検討していく。
---	---	--	---	--

件名: セルフプランについて 他部会との連携: 他部会と合同で検討希望 運営会議での取扱い: 情報共有

必要な方に計画相談をつけることが出来ずに、セルフプラン率が増加している(特に児童)。ライフステージの変わり目ごとに相談先がないと保護者も不安が大きくなる。	⇒	相談支援専門員が不足していることに加え、相談支援専門員が何をしてくれる人なのか、何を相談していいのかわからない方が多く、サービス提供事業所からも気軽に相談支援専門員をつけるよう案内がなされている。	⇒	柏市だけでなく、近隣市の計画相談の空き状況や現状、動向などを把握していく。計画相談の業務内容、計画相談の必要性や案内の見直し、個別支援計画との整合性、セルフプランとの違い等、サービス提供事業所を中心に周知を進めていく。
---	---	--	---	---

件名: 相談支援体制における行政機関との連携について 他部会との連携: 他部会と合同で検討希望 運営会議での取扱い: 意見交換

精神障害のケースや児童の複合的課題を抱えたケースの増加で、相談支援専門員だけでは抱えきれないケースや対応が困難なケースが増えている。	⇒	相談支援専門員の支援者支援として、基幹相談支援センターや地域生活支援拠点が役割を担っているが、その他の行政機関を含めた関係機関のネットワーク連携が希薄化している。支援者支援を行う機関を支えるネットワークも必要。	⇒	様々な行政機関や関係機関のネットワークを活用して連携しながら支援を行っていきけるよう、相談支援体制の強化に向けたフローチャート形式のたたき台を事務局で作成して、来年度の部会で検討を行う。
--	---	---	---	---

■各回の検討から見える地域課題

<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員だけでなく、障害福祉分野すべてにおいて人材不足があげられる。 ・計画相談を含め、必要なサービスが必要な人に行き届かない現状がある。特に放課後等デイサービスでは就労している保護者が増えたこと、学童で受け入れ困難となった障害児の行先として利用希望者が多く、本来療育が必要な人が利用できなくなっている。人口動態等も見ていながら検討や検証が必要。 ・防災対策について、柏市全体の課題を踏まえつつ、災害時の相談支援体制やネットワークについて、来年度部会として意見交換等に取り組んでいく。
--

■各回におけるその他の共有事項 ※研修の実施状況や部会で単に情報共有した内容等

<ul style="list-style-type: none"> ○相談支援部会委員の追加について ・柏市くらしコーディネーター、児童発達支援センターリトルペガサス地域支援室を新たな委員として追加。 ○第4回相談支援連絡会(R7年1月17日開催予定) 基幹相談支援センター研修と共催で「医療観察法について」の研修を予定。千葉保護観察所の社会復帰調整官と成田市の地域生活支援センターの相談員を招いて、実際の事例を用いて理解を深める。 ○はたらく部会・相談部会合同研修会(R7年2月5日開催予定) 人数制限の撤廃をして再度参加者募集。

部会報告シート

■部会の基本情報

部会名	くらし部会
担当者名	野田 幸子
部会の目的	柏市における障害者の様々な暮らし方を支えるサービスのあり方を協議
構成員	当事者団体, グループホーム, 入所施設, 生活介護, 地域活動支援センター, 行政(障害福祉課)

今年度の予定(今回の報告対象:背景色のある回)

会議体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
くらし部会		①13日			②30日				③18日			
居宅支援連絡会				①8日				②20日				
グループホーム等連絡会				①30日				②20日				

■プランとの関連

関連する柱	柱2(基盤整備, サービス)
-------	----------------

プラン方針	・拠点を中心としたネットワーク深化 ・高齢, 重度障害者への支援体制強化 ・サービスの充実や人材確保
-------	--

■各回における検討内容

地域の声>当事者からどんな声があった?何に困っている?

部会で出た課題>なぜ困っている?どこに課題がある?

今後の方針>部会でどんな取組を進める?

件名: 地域活動支援センターの課題について

他部会との連携: 自部会で検討を継続

運営会議での取扱い: 情報共有

市町村事業のため手続きが異なること、支給決定に基づく利用時間が現在の利用ニーズに沿っていないことが、利用のしづらさに繋がっているのではないか。

他市との契約手続きはやり取りに手間がかかり大変だが、本人との契約に結び付くかはわからない。
通所系障害福祉サービスに通うことが難しい方の、社会へのファーストステップとしての利用が難しい。

市内の地域活動支援センターへ、順次柏市が事業所へ訪問し現状視察、問題点の協議を検討予定。
1時間未満の利用であっても、時間や活動内容等の目標を立てることで請求の対象となる取組みがあると良い。

件名: ヘルパーの高齢化に伴う人材の確保

他部会との連携: 自部会で検討を継続

運営会議での取扱い: 情報共有

グループホームやヘルパー職員の高齢化が進む中、若い世代の人材確保が課題となっている。

スキマバイトなどで人員を確保している事業所がある。
アスリートを目指している方、福祉業界を目指している学生、外国籍の方、障害者雇用の方等を対象に求人募集をかける方法がある。

雇用の注意点や手続きを知る必要性。
資格取得の支援の必要性。
外国人雇用について、実績がある法人から取組みや注意点等説明いただく。また、取組みが進んでいる病院から指導方法や人材確保のルートをお聞きする。

■各回の検討から見える地域課題

地域生活支援事業の経営的な困難さ。地域で生活していく上で重要なサービスであるが、様々な規定のため、社会に出ることが難しい方が、社会に出るために利用できるサービスが少なくなってしまう。
ヘルパーやグループホーム等の人材不足。

■各回におけるその他の共有事項 ※研修の実施状況や部会で単に情報共有した内容等

- ・今年度10月より、柏市くらしコーディネーターが始動した。現在は様々な場所で新事業の周知とネットワークづくり、グループホーム事業所へ訪問を行い、ニーズの聞き取り等を行っている。
- ・柏市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業、柏市健康医療部保健予防課(柏市精神保健福祉支援者研修会)と共催で、精神障害者の基礎知識と対応方法について合同研修会を行った。千葉大学医学部附属病院看護部 看護師長の森内 加奈恵 氏より講演をいただき、精神障害者の支援についてグループワークで意見交換を行った。
- ・来年度より、居宅支援連絡会の名称を、「ヘルパー事業所連絡会」に変更する。
- ・地域連携推進会議の開催方法や、介護保険への移行等の理解を深めるための研修について検討する。
- ・災害対策について、柏市における福祉避難所の基準や役割、設備資金や必要物資の明確化、医療的ケアが必要な方の電源確保、提供場所の具体化が必要になる。
- ・災害時の個別避難計画の立て方に詳しい方に講演を依頼することを検討する。

部会報告シート

■部会の基本情報

部会名	はたらく部会
担当者名	部会長 障害者就業・生活支援センタービックハート柏 八木原 直彦
部会の目的	障害者の就労支援体制や課題等について検討
構成員	障害者就業・生活支援センター, 職業安定所, 商工会議所, 特別支援学校, 就労支援事業所, 当事者団体, 行政(障害福祉課)

今年度の予定(今回の報告対象:背景色のある回)

会議体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
はたらく部会		①16日			②29日				③18日			
一般就労連絡会		①29日				②19日		③27日				
福祉的就労連絡会		①29日				②19日		③27日				

■プランとの関連

関連する柱	柱3(就労支援)
-------	----------

プラン方針	・多様なニーズに応じた就労支援 ・企業における障害理解促進の取組強化 ・工賃向上
-------	--

■各回における検討内容

地域の声>当事者からどんな声があった?何に困っている? ⇒ 部会で出た課題>なぜ困っている?どこに課題がある? ⇒ 今後の方針>部会でどんな取組を進める?

件名: 就労選択支援事業について(学校卒業後→就労希望の方の支援)

他部会との連携: 他部会と合同で検討希望

運営会議での取扱い: 情報共有

令和7年10月1日～開始予定の当該事業についての情報集めや各事業所の役割等の確認。当事者としては、情報不足により、今後この事業がどう進んでいくのかわからない不安。

⇒ 国から内容の詳細等の提示がないため、当事者や各関係機関がどのような準備や役割をしていけばいいのかわからない。

⇒ 令和7年2月に実施予定の、専門の講師を招いて行う研修会で知識を深めたうえで、来年度以降に各関係機関から構成員を決める等部会で協議したうえで、スムーズな事業展開ができるよう協議していく。

件名: 身体に重度の障害がある方の就労について

他部会との連携: 自部会で検討を継続

運営会議での取扱い: 情報共有

重度障害者等就労支援特別事業についての理解と、全国でも実施している自治体が少ない中で、柏市としてどの程度まで実現可能か。

⇒ 柏市でどの程度の希望人数がいるか、また対象の方にどのような支援が必要か、柏市の現状が全く見えていない。

⇒ 事業実施が可能かどうか、来年度以降の繰り越し課題として部会で精査、協議していく。

■各回の検討から見える地域課題

・一般就労及び福祉的の両連絡会において、人材育成や人材確保が課題となっている。
 ・福祉的連絡会においてはその他にも、今年度の報酬改定で運営に影響が出ている事業所もあり、今後、閉所せざるを得ない深刻な状況になる可能性もあり。

■各回におけるその他の共有事項 ※研修の実施状況や部会で単に情報共有した内容等

・来年度、災害時における対応を協議していく。
 ・はたらく部会・相談支援連絡会合同開催の就労選択支援事業の研修会については、11月1日に出欠案内を送信かつ12月頭に研修会後の情報交換会を含めた出欠案内を再送信。12月下旬に最後の事務局会議を行い、1月中旬に講師を交えた会議(zoom)を行う予定。
 ・第3回一般就労連絡会では、事業所アンケート結果を踏まえた次年度への課題として、事業所の人材不足や利用者不足、支援方法についてや、就労選択支援事業等が挙げられた。
 ・第3回福祉的就労連絡会ではグループワークを行い、そこから出た次年度への課題として、人材育成や人材確保、工賃向上のための取り組みや支援方法等が挙げられた。

部会報告シート

■部会の基本情報

部会名	こども部会
担当者名	部会長 社会福祉法人桐友学園 新福 麻由美
部会の目的	柏市における障害児支援のあり方について協議
構成員	児童発達支援, 放課後等デイサービス事業所, 当事者団体, 特別支援学校, 行政(児童生徒課, こども発達センター, 保育運営課, 地域保健課, 障害福祉課)

今年度の予定(今回の報告対象:背景色のある回)

会議体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
こども部会		①8日				②9日			③16日			
早期支援担当者会議				①8日			②30日				③19日	
放課後等デイサービス連絡会			①7日				②22日					
児童発達支援事業所連絡会			①28日							②23日		

■プランとの関連

関連する柱	柱4(こども)
-------	---------

プラン方針	・乳幼児期における支援 ・学齢期における支援 ・切れ目のない支援
-------	----------------------------------

■各回における検討内容

地域の声>当事者からどんな声があった?何に困っている?

部会で出た課題>なぜ困っている?どこに課題がある?

今後の方針>部会でどんな取組を進める?

件名: 障害児通所支援における定員超過について

他部会との連携: 自部会で検討を継続

運営会議での取扱い: 意見交換

利用希望に対しての療育先やこどもの居場所が不足している。こどもの居場所が安定せず、働きたくても就労できない。

通える範囲の資源状況、障害特性や専門性、家族の事情等によって通所先が限られ、利用事業所に偏りが生じることがある。セルフプランや放課後等デイサービスの利用希望が増えていて、利用できない児が多い。

こどもの利益や家族支援、市の実情を考慮して想定される「やむを得ない事情」をまとめ、定員超過の具体的な運用について要望書等で市へ提案する。障害児通所支援に限らない安心できるこどもの居場所について、将来も見据えたかたちで意見交換をしていく。

件名: 小学二年生以降の保育所等訪問支援の利用について

他部会との連携: 自部会で検討を継続

運営会議での取扱い: 情報共有

成長や環境の変化に伴い、個々の新たな困りごとが出てくることあり、学校生活に不安を感じることもある。

小学二年生以降の保育所等訪問支援について、非定型理由書の提出が必要となっており、保護者や相談員の負担から保育所等訪問支援の利用まで至らないことがある。

小学二年生以降の保育所等訪問支援の利用における非定型理由書の在り方について意見交換していく。保育所等訪問支援を通して教育機関と連携をしながら、移行支援やインクルーシブ教育に繋がるように取り組んでいく。

件名: 障害児の相談支援体制について

他部会との連携: 他部会でも検討希望

運営会議での取扱い: 情報共有

相談員支援専門員がついておらず、事業所の利用ができるかも不透明で不安を感じているが、気軽に相談できない。

障害児相談支援を実施している相談支援専門員が希望者の数に対して不足している。相談機関が多数ある一方で、内容に応じた相談先に悩む方がいる。

セルフプランでの利用が増加していることや、相談員の不足について相談支援部会と連携をしていく。相談支援専門員をつけること以外で保護者やこどもが安心できる方法についても意見交換をしていく。

■各回の検討から見える地域課題

こどもの居場所や相談先といった社会資源の不足や相談支援体制から保護者の不安が大きくなっている。結果としてこどもの不利益に繋がる恐れがある。当事者の希望と事業所の思いが合致していても、市の制度運用によって社会資源の増幅が難しくなっている。療育を目的とした通所先と保護者の就労等を理由とする療育以外を目的としたこどもの居場所の区別が分かりにくくなっている。

■各回におけるその他の共有事項

※研修の実施状況や部会で単に情報共有した内容等

来年度、個別避難計画等の災害時の対応について情報共有していく。
サポートファイルの活用についても継続して意見交換していく。
○児童発達支援センター リトルペガサス主催 研修会
放課後等デイサービス向け地域別研修会 明日に繋がる子ども理解と支援のヒント交換会 令和7年1月31日(金)、令和7年2月3日(月)、令和7年2月17日(月) 講師:こども相談センター 北村様
障害児通所支援事業所向け研修会 児童発達支援ガイドライン 5領域にかかわる発達段階に合わせた支援 令和7年1月15日(水) 講師:全国児童発達支援協議会 理事 光真坊様
保育所等訪問支援事業所連絡会について、第1回令和6年7月10日(水)、第2回令和6年11月22日(金)、第3回令和7年1月15日(水)に実施。